

# 防災

小学校中学年以上

中学校

高校

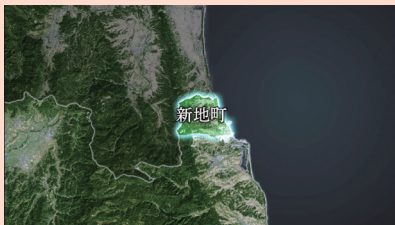
総合

学級活動

証言記録 東日本大震災 43分

## 第36回 福島県新地町 津波は知っているつもりだった (2014年放送)

### この番組の良さ



#### 過去の経験

東日本大震災において、101名の犠牲者を出し、町の1/5が壊滅状態になった、福島県新地町。

大津波警報が発令されても、多くの人が逃げようとしませんでした。津波を警戒しなかったのは、1960年に起きたチリ地震津波の記憶があったからです。

#### なぜ警戒を怠ったのか

人々の記憶には、津波で水が引いた後、魚や海藻を取った良い思い出ばかりが残っていました。今回の地震による津波でも、チリ地震での津波程度だと思い込んでしまいました。

本番組では、大震災時の人々の行動を克明にたどりながら、過去の思い出込みが多くの犠牲につながっていったことを、地域住民の証言や行動を振り返って実証しています。

津波に対して、どう考え、どう行動すべきか、考えさせる内容となっています。

### 番組活用のポイント

#### 大津波は来ないという過信

番組の中でよく出てくる言葉が「チリ地震津波」です。新地町の人々にとってチリ地震津波は、波が引いた後の魚や海藻取りが楽しかったという思い出しかありませんでした。この経験が、津波を甘く見るという形で町の人に伝わってしまい、結果、東日本大震災では、甚大な被害が出てしまいました。

安全神話を過信せず、過去の記憶や誤った情報にとらわれず、正しく迅速に行動することの大切さや難しさを、番組は教えてくれます。

#### 行動を振り返ってみるきっかけに

当時の証言記録という流れで、この番組は進行していきます。時系列で、出来事と証言、そして人々の行動を追っていきます。そして、その言動を冷静に分析していきます。

番組には、自分の行動を振り返り、後悔している場面が何度も出てきます。とっさの時、素早く的確に判断する難しさを、あらためて考えさせられます。

番組で紹介される貴重な証言が、自分の行動を見直す時のヒントになればと考えます。

#### 正しく伝えていくために

チリ地震津波を経験したがために、誤った記憶が残ってしまった新地町の人々。東日本大震災を体験し、次は自分たちが後世にこの体験を伝えていく番です。番組を通して、伝えることの難しさや大切さを考えることにより、人に正しく伝えていく意味と意義について学ぶことができます。

学習展開例


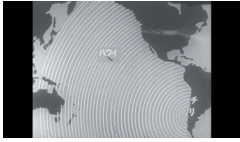


授業時間 90分



小松島市  
小松島小学校  
教諭 溝内正剛

執筆

# 過信の怖さ 正しく伝えることの難しさ

時間配分	学習活動	教師の支援
5分	①東日本大震災について知っていることを発表する。	○大きな揺れ、建物の倒壊、大津波など、知っていることを発表する。
25分	②番組を視聴しながら考える。  	○開始から3分5秒のタイトルの場面で一時停止をする。 ○町の地理的条件と津波の規模、津波に対する他の土地の人々との認識の違いを押さえる。  ○チリ地震津波の新地町への影響の特異性について考えながら視聴するよう、促す。 ○23分58秒の「町の人は大津波が来るとい実感のないまま」のナレーション後停止する。
15分	③番組を半分視聴後、感想を話し合う。 ・新地町の位置や、チリ地震津波の状況について考える。  ・大津波警報が発令されても、避難しなかった人の気持ちについて、意見を出す。  ・次時の学習内容を知る。	○自由に意見が言えるよう配慮する。 ○地理的な位置や、海からの距離、高台の場所などを板書で確認する。 ○チリ地震津波当時の新地町の状況についてまとめることで、次時の学習へとつなげていく。 ○避難しなかった人の考えについて、意見を出し合う。 ○次時への問題(津波が来る実感のないままその時を迎えたこと)を投げかける。
10分	①前時の学習を振り返る。	○前時の学習時のキーワードを使い、本時の学習につなげる。
20分	②番組を視聴しながら考える。  	○23分58秒あたりから視聴を再開する。 ○津波到達後の、それぞれの人々の考えや動きに気をつけて視聴するよう話す。 ○39分52秒の「町の1/5が壊滅状態になりました」のナレーション後、一時停止を行う。 ○自分がとった行動を後悔していることと、津波の経験を正しく伝え残していくことの難しさ、大切さについて押さえる。 ○番組の最後まで視聴を行う。
15分	③番組視聴後、感想を話し合い、意見をまとめる。 ・津波到達時の様子について発表する。  ・相手に正しい情報を伝えるために気をつけることを考える。 ・番組最後の言葉を取り上げ、これからどうすればよいか考える。	○自由に意見が言えるよう配慮する。 ○津波到達時の混乱や、行動に目が向くようにする。 ○亡くなった人や家族の思いについて考えるよう話す。 ○相手に真実を、分かりやすく、正しく伝えるためのポイントについて押さえる。 ○「今回の教訓を胸に刻みこの地で生きていこうとしています」という言葉の重みを押さえる。

防災